

九州産業大学大学院

KYUSHU SANGYO UNIVERSITY GRADUATE SCHOOL



令和2年度 研究成果発表会

姜振慶のドキュメンタリー写真の様相

Documentary Photography : A Case Study On Jiang Zhenqing

博士後期課程

芸術研究科 造形表現専攻 写真研究領域

鄒 易諾

主査 百瀬俊哉
副査 青木幹太
渡邊雄二

論文の構成

- 第一章 研究概要
- 第二章 ドキュメンタリー写真家姜振慶について
- 第三章 姜振慶の代表作品研究
- 第四章 ドキュメンタリー写真の様相
- 第五章 研究者の作品制作
 - 「Night Bazaar In Shanghai」
 - 「アカシヤの大連」
 - 「海岸」
- 第六章 まとめ

第一章 研究概要

1. 研究背景

ドキュメンタリー写真の制作と並行して、自身の作品を高めるために多くの作家及びその作品を対象に、ドキュメンタリー写真のテーマ、表現方法、作品から発信されるメッセージなどについて調査を行ってきた。

ドキュメンタリー写真への関心や大連への思いの中で、大連在住の写真家姜振慶の写真に出会うことができた。

2. 研究対象

現在68歳（2020年7月）と健在で、姜振慶の写真を正しく理解することが、自身のドキュメンタリー写真の制作、研究に寄与すると考えられることから、直接会って話を聞くインタビュー調査を試みる。

姜振慶の作品は、中国写真芸術最高賞2004年第6回アカデミー賞と2009年第8回アカデミー賞の受賞経験があり。

3.研究目的

姜振慶の作品の研究や彼のインタビュー調査を通して、ドキュメンタリー写真とはどのようなものか、また姜振慶独自の撮影技術やテーマを明らかにすることで、研究者の作品制作に生かしていくことを目的とする。

写真家姜振慶は、中国においても著作や記事などが少なく、日本にも紹介されていないことから、本研究を通して姜振慶の作品や写真作家としての姜振慶の活動を紹介することは日本のドキュメンタリー写真の発展に寄与すると考えた。

4.研究方法、経緯

- (1) 中国のドキュメンタリー写真に関する文献調査
- (2) 姜振慶の作品調査と作品分析
- (3) 姜振慶のインタビュー調査
- (4) ドキュメンタリー写真の制作

第二章 ドキュメンタリー写真家姜振慶について

写真家姜振慶



1952年大連市に生まれた。



絵を描くのが好き、画家になることを決心した。



軍隊に入隊をした、入隊後広報の仕事に就いた。



軍隊の任期を終えた後、公務員として就職した。



カメラの支給が姜振慶の人生を変えることになる。

1988年～2019年、4つのテーマでドキュメンタリー写真を撮影した。



①『撮影チベット』は、2007年台湾芸術家出版社から出版され、大連について写真活動のほか、チベットで記録した写真集である。



②『海岸』は、2016年中国民俗写真出版社から出版され、大連を中心に海岸を記録した写真集である。



③「共和国の長男」(東北地方の工業)は、大連の工業を表現した作品である。



④『大寒』は、2019年浙江撮影出版社から出版され、大連の農業、農村の生活を記録した写真集である。。

写真集『撮影チベット』



1988年彼は友人に会うため
初めてチベットを訪れた。



姜振慶はチベットにいた時に、
強い印象を残した。



チベットの写真は、姜振慶が
ドキュメンタリー写真の技術、その価値、
写真の理解を知る大きな契機をなした。

写真集『大寒』



中国は農業大国であり、農村部における問題は
中国全体の問題である。



この人々を記録することは写真家の使命でもある。



この作品の中で一番重要な要素は人物である。



人物の肖像は農民の真実を客観的に
表現したものである。

第三章 姜振慶の代表作品研究

写真集『海岸』

1992年から2012年に、撮影した作品を『海岸』の写真集として出版した。実際に1800キロの海岸に沿って歩き、撮影した。

3部作になっている「赶海」は潮干狩りを、「漁村」は漁民の生活を、「大塢」は船を建造、修理するドック対象に、それぞれで大連の工業化にともなう、変遷を記録している。

写真集『海岸』は20世紀末から21世紀初頭にかけて、中国の改革開放以降に急速に工業化され、それまでの大連の景観と人々の生活が消失していく様子を克明に記録している。

写真集「赶海」（ガンハイ）

1992年～2006年に潮干狩りの漁民の様子を撮影した作品であり、2004年中国写真芸術最高賞である第6回アカデミー賞を受賞している。

「潮干狩りをともにし、地域の風俗を見せ、感情に入り込んで、写真を撮った」

写真が漁民たちの生き生きとした様子を写し出し、潮干狩りをする者の物語を写した。

写真集「大塙」（ダイウ）

2008年～2012年に大型船舶を建造する様子を撮影した作品である。

環境汚染で漁業が立ち行かなくなった漁民たちにとって、
2000年から海岸は国に徴用され、
大型船舶の工場、物流センターなどが建設された。

労働者の生活に密着して撮影したもので、
労働者の純朴さ、苦勞に耐える強さ、堅実さを目の当たりにした。

写真集「共和国の長男」（東北地方の工業）

2009年頃に撮影していたテーマである。

この作品は中国写真芸術最高賞である2009年第8回中国アカデミー賞を受賞している。

工場に掲げられているスローガン、古い機械に惹きつけられた。
建国初期から、困難を乗り越え事業を立ち上げた歴史を感じることができる。

これらの工場地帯を撮影してきたことで、重要な歴史を記録することができた。
中国工業の揺りかごととなった東北地方の工業は、70年間で大変革をとげた。

第四章 ドキュメンタリー写真の様相

1. 姜振慶のドキュメンタリー写真

作品の中で、大連を中心に被写体の変化である。
独自の理解でその時の社会が近代化していく状況を示している。

2. 記憶の記録

時間を超えて人々に過去を伝えている。
改革開放以降今日まで、開発途上の大連と急速に発展した大連を写し、
環境の変化による人々の変容まで記録した。

3. 写真家の資質

コミュニケーション能力と好奇心が必要である。
鑑賞者とのコミュニケーションの手段とした、
鑑賞者の感情に訴えることができる写真作品を撮影することができる。

4. 写真技術の発展

写真技術の発展に応じてそれを撮影に取り入れたことで、
表現が深まっていったことが分かる。

第五章 研究者の作品制作

作品「Night Bazaar In Shanghai」

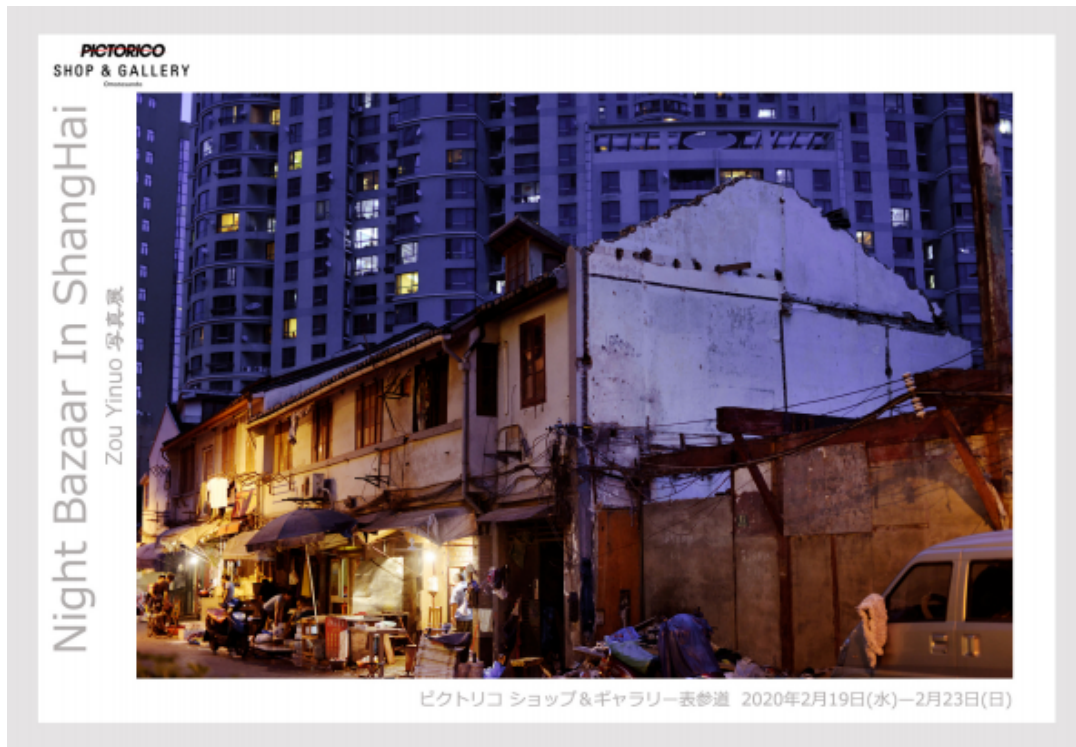
「Night Bazaar In Shanghai」は、2018年～2020年に制作した。

上海の下町の市場と人々にカメラを向け、都市の開発が進む中、発見した未開発の下町の風景を、都市の断片として切り取ったものである。

私自身の心の声に耳を澄まし、人々の日常生活に焦点を当て、古い社会と新しい社会の間に生じる 現実の生活を記録することに注力している。

作品「Night Bazaar In Shanghai」の展示

「2020年2月 ピクトリコギャラリー表参道で開催、カラー写真25点を展示した。」



写真展のハガキ



展示の風景とギャラリーの外観

作品「アカシヤの大連」

「アカシヤの大連」は、2017年～2020年に制作した。

現在の大連を記録しその様子を伝えることを重視した。

人生の1/3に以上を暮らしていた街、いままで気付かない街の風景も、撮影を重ねるごとに、ますます被写体が増えていく。


大連の人々の日常生活の環境や様子を観察し、私自身と関係が深い場所やその場所がもつ構造的、象徴的なものを撮影し、自己の内面を模索した。

作品「アカシアの大連」の展示

「2020年11月 福岡市美術館で開催、カラー写真28点を展示した。」

アカシヤの大連
鄒 易諾写真展

PHOTO EXHIBITION



2020年11月25日(水) ▶ 11月29日(日)

福岡市美術館 ギャラリーA
福岡市中央区大濠公園1-6

写真展の八ガキ



展示の風景

作品「海岸」

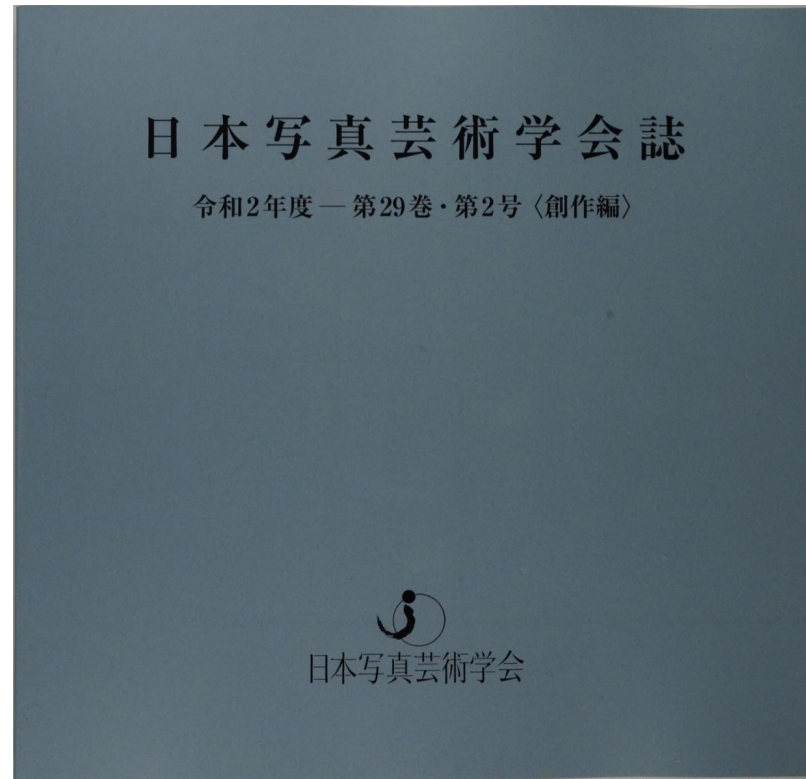
「海岸」は、2020年に制作した。

「海岸」の制作では、姜振慶の撮影場所を歩き、新しい体験を感じる。

そこでは人影はなく、波の音だけが聞こえる「静けさ」の中で、

その静閑な空間を感じながら撮影した。

2020年12月 日本写真芸術学会の学会誌〈創作編〉令和2年度第29巻・第2号で2点作品を掲載した。



第六章 まとめ

研究者は姜振慶の写真に資料としての価値、人々の記憶のよりどころを見出すとともに、優れた芸術性にも着目した。

本論文で姜振慶のドキュメンタリー写真の研究について述べた、今後研究者は、ドキュメンタリーをテーマに作品制作し、社会に貢献していきたいと思っている。

指導教員コメント

写真家の姜振慶を中心にドキュメンタリー写真の変遷について、日常を単に記録するだけから、大連を通じて自分の心を表現し、独自の理解でその時の社会が現代化していく状況を示し、写真内容の芸術性や創造性を重視してきたと論じている。激変している社会情勢の中で写真家の姜振慶がどのような状況下で活動してきたかを、丹念なフィールドワークで調査しており、姜振慶のドキュメンタリー写真の様相を示している。そして研究者も、一人の写真家として社会に貢献できるような作品を制作していきたいと結んでいる。ドキュメンタリー写真の研究を通して、写真が社会とどの様に関わってきたのをしっかりと読み解いており、取材した写真家の体験を調査した研究活動は、自身の作品活動作品「One Night In SHANGHAI」、「アカシアの大連」及び「海岸」も含めて評価できる。

百瀬俊哉